

教科名	数学	週時間数	4時間	学年	1年
使用教科書 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来へひろがる数学Ⅰ」(啓林館)</li> <li>・「数学の学習Ⅰ年」(明治図書)</li> </ul>				

教科のねらい	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成するとともに主体的に学習する態度の育成を目指します。</p>		
授業の進め方	<p>教科書を中心に授業を進めます。 また、機械的な計算方法を反復練習によって習熟させ、例題を通して問題の解決策を見いださせるよう努めます。 課題を達成できたかどうか確かめるために、ワークを使用することがあります。 クロムブックを積極的に活用していきます。</p>		
定期考査	出題方針	<p>教科書の内容に準じて、基本的な数学力を問う問題を出題する。 また、応用問題の出題により、数学的な見方や考え方の習熟度を計ります。</p>	
	範囲 (予定)	1学期中間	正の数・負の数
		1学期期末	正の数・負の数 文字と式
		2学期中間	方程式 変化と対応
		2学期期末	平面図形 空間図形(前半)
		学年末	空間図形 データの活用 1年生のまとめ
	主体的に学習に取り組む態度	<p>授業の様子、宿題の提出状況 ワークの取り組み方、振り返りシートの記述など</p>	
思考力・判断力・表現力	<p>定期テスト、授業の様子、授業の課題など</p>		
知識・技能	<p>定期テスト、授業の様子など</p>		
学習方法 (先生からの アドバイス等)	<p>授業で与えられた課題に対して個人で解決しようと取り組んだり、また4人グループや主体的に作った小グループなどでの話し合いで考えを深めたりしながら、わからないことは積極的に聞いて理解するようにしていきましょう。 学力を定着させるためには量も必要であるので、たくさん問題に取り組むといいと思います。 わからない問題はそのままにせず、粘り強く問題に取り組みましょう。</p>		

学期	月	単元	学習内容	学習のポイント
1	4	オリエンテーション		
	5	1. 正の数・負の数	・0より小さい数	・0より小さい数があることを知る。
			・正の数・負の数で量を表すこと	・日常的な具体的な事象を通して、正・負の意味を理解する。
			・絶対値と数の大小	・正・負の数の大きさを理解する。
	6		・正の数・負の数の加法、減法	・加法、減法の計算方法を理解し、それらの混合計算ができるようになる。
			・加法と減法の混じった計算	
			・正の数・負の数の乗法、除法	・乗法、除法の計算方法を理解し、それらの混合計算ができるようになる。
・乗法と除法の混じった計算				
7	2. 文字の式	・いろいろな計算		
		・数の世界のひろがりや四則計算	・四則計算の可能性を保つために数の範囲を広げる必要があることを知り、数の概念を(正・負の)有理数にまで拡張できるようになる。	
		・数量を文字で表すこと		
2	9	3. 方程式	・文字式の表し方	・文字の意味を理解し、数量を文字を使って表すことができる。
			・式の値	・文字式を書くときのきまりを知り、きまりにしたがって書くことができる。
			・文字式の加法、減法	・式の値の意味を理解する。
	10	4. 変化と対応	・文字式と数の乗法、除法	・1次式の加法・減法の計算ができる。また、単項式、多項式と数の乗法・除法ができる。
			・関係を表す式	・大小関係を不等式を用いて表すことができるようになる。また、不等式で表された数量の関係を読み取ることができるようになる。
			・方程式とその解	・方程式及びその中の文字や解の意味を理解する。
			・方程式の解き方	・等式の性質を理解し、一次方程式が解ける。
	11		・比と比例式	・比や比の性質についての基礎的・基本的な理解を確実なものにし、比例式の意味や活用について理解することができる。
			・方程式の利用	・一次方程式を用いて解くことができる。
			・関数	・ともなって変わる2つの数量に着目し、一方が変われば、それに対応して他方の量が変わるといようなとらえ方ができるようになる。
	5. 平面図形		・比例の式	・比例の特徴を式の形でとらえることができる。
・座標				
・比例のグラフ			・比例の関係をグラフに表すことができる。	
・反比例の式			・反比例の特徴を式の形でとらえられる。	
・反比例のグラフ			・反比例の関係をグラフに表すことができる。	
		・比例、反比例の利用	・事象から比例、反比例の関係を見いだして、問題を解決できる。	
		・直線と角	・直線や線分、角とその表し方など、直線図形に関する基本的な事項を理解する。	

	12		<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の移動</li> <li>・基本の作図</li> <li>・円とおうぎ形の性質</li> <li>・円とおうぎ形の計量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行移動、回転移動、対称移動の意味とその基本の性質を操作を通して知る。</li> <li>・定規とコンパスを使って基本的な作図ができるようにする。また、作図を利用できるようにする。</li> <li>・おうぎ形の弧の長さや面積は中心角に比例することを理解する。また円の接線、弧、弦の意味を理解する</li> </ul>
3	1	6. 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな立体</li> <li>・空間内の平面と直線</li> <li>・立体のいろいろな見方</li> <li>・立体の表面積</li> <li>・立体の体積</li> <li>・球の計量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体の意味、角錐、円錐、多面体、正多面体について理解する</li> <li>・空間における直線と平面の位置関係について理解し、平面の決定条件を理解する。</li> <li>・運動によって立体を見ることにより、立体の概念理解を深める。</li> <li>・立体を平面上に表す1つのアイデアとして、投影図の見方、考え方を理解する。</li> <li>・展開図を利用して、柱体、錐体の表面積を求めることができる。また、体積の公式を理解し、体積を求めることができる。</li> <li>・球の体積について、実験をイメージしながら、体積の公式を導く過程を、具体的な数で展開し、その上で、公式を与えられ、具体的な球の表面積や体積を求めることができるようになる。</li> </ul>
	2	7. データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・度数分布</li> <li>・代表値と散らばり</li> <li>・近似値</li> <li>・調べたことをまとめ、発表しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて資料を収集し、度数分布表に整理したり、ヒストグラムに表したりすることができる。</li> <li>・集団の傾向をとらえるためには、度数分布表やヒストグラムのほかに、代表値や試料の散らばりにも着目する必要があることを知る。</li> <li>・誤差や近似値について理解し、それぞれの場面で、それらを適切に扱うことができるようにする。</li> <li>・資料について調べたことを、ヒストグラムや代表値を用いて説明したり、自分の考えを発表したりすることができるようにする。</li> </ul>
	3			